

## 尾道市史編纂室蔵『永記録』の1855年安政江戸地震に関する記述

山村紀香\* (京都大学大学院理学研究科)・加納靖之 (東京大学地震研究所)・石川良枝 (頼山陽史跡資料館)

### §1. はじめに

1855年11月11日(安政二年十月二日)午後10時頃に発生した安政江戸地震は、江戸の下町を中心として激しい揺れをもたらした地震である。震央は荒川河口近くで、マグニチュードは7.0~7.1と推定される[たとえば、宇佐美・他(2013)]。

本地震に関する史料は、『新収日本地震史料[東京大学地震研究所(1985)]』をはじめ、『日本の歴史地震史料拾遺別巻[宇佐美(1999)]』などに多数収録されている。本報告では、上記の地震史料集に収録されていない史料記述を紹介するとともに、記述内容を吟味する。

### §2. 尾道市史編纂室蔵『永記録』

古志家文書『永記録』は、現在の広島県尾道市瀬戸田町において、宝亀屋伴介が記した文書である。1854年安政東海・南海地震の際には、家屋被害や塩田の液状化現象について記されており、それらの記述は瀬戸田町史[瀬戸田町教育委員会(1997)]と上記の地震史料集にも掲載がある。しかし、翌年の1855年安政江戸地震の大名屋敷の被害に関する記述は、瀬戸田町内に直接的な被害がないことから、瀬戸田町史、地震史料集ともに掲載されていなかった。そのため、安政江戸地震に関しては、地震史料として初出であると考えられる。

### §3. 記述内容の検討

以下が記述の抜粋である。下線部(1)~(3)について、他の史料あるいは先行研究と比較することによって、事実確認を行う。

「卯十月 江戸御府内大ニ鳴動  
有之夜戌之刻大地震(1)地中三尺斗  
飛上り候様相覚候よし

(中略)

(2)諸侯様方御屋敷廿軒余焼失

(中略)

(3)御国方様御屋敷御無灘恐悦  
此事ニ御座候今治侯御屋敷は  
丸焼と相聞候隣国福山松山岡山公  
西条防長御焼失ハ無御座候よし」

#### 下線部(1)：地震の揺れ方

「三尺斗飛上り」という記述は、強い縦揺れを想起させる。しかし、このような揺れの表現は、他の史料ではあまり見られなかった。『先考遺筆(新収5別2-2, p.1908)]』では「凡三尺より五尺くらい上り、下り」、『大日記(拾遺別, p.854)]』では「盪杯二三尺もゆり上或ハはね飛し」と記されている程度であった。

#### 下線部(2)：大名屋敷の火災の被害

大名家の被害一覧表[宇佐美(2003)]によると、火災で焼失した大名屋敷の総数は25軒であった。下線部(2)では、大名屋敷が「廿軒余焼失」とあるため、別段矛盾する値ではなかった。

#### 下線部(3)：自国・近隣国の大名屋敷の被害

下線部(3)では、自国(安芸国)の大名屋敷の被害状況を伝えるほか、近隣国(備前、備中、備後、周防、長州、伊予)の大名屋敷の状況までも伝えている。今治藩の大名屋敷は焼失し、そのほか(今治藩以外の近隣国と自国)の大名屋敷は焼失していないという内容である。これらは宇佐美(2003)と整合性がみられた。

### §4. おわりに

今回、瀬戸田町における安政江戸地震に関する記述が確認された。こと新しい内容ではなかったが、瀬戸内海に浮かぶ島にまで地震の情報がある程度共有されていたことと、近隣国の大名屋敷の被害に関心があったことがわかった。今後は情報の出処についても検討が必要である。新たな史料記述が増えることは、歴史地震の解明につながる場合がある。そのため、些細な記述であっても積極的に報告していくことが望まれる。

#### 参考文献

瀬戸田町教育委員会, 1997, 瀬戸田町史(資料編). 東京大学地震研究所, 1985, 新収日本地震史料第五巻別巻二ノ一・二ノ二.  
宇佐美, 1999, 日本の歴史地震史料拾遺別巻.  
宇佐美, 2003, 安政2年10月2日の江戸地震における大名家の被害一覧表.  
宇佐美・他, 2013, 日本被害地震総覧 599-2012.